

スペイン カステリヨンの小中学生における 生活用水硬度とアトピー性皮膚炎有症率の関連性

Arnedo-Pena A, Bellido-Blasco J, Puig-Barbera J, Artero-Civera A, Campos-Cruaños JB,
Pac-Sa MR, Villamarín-Vázquez JL, Felis-Dauder C.

スペイン カステリヨン市立公共衛生センター 疫病学研究室
arnedo_alb@gva.es

論文要旨

水の硬度とアトピー性皮膚炎の関連性は、すでにイギリスと日本で行われた疫学研究で明らかにされている。

目的

アトピー性皮膚炎有症率と生活用水硬度の関連性の評価。

研究方法

アトピー性皮膚炎有症率の情報の収集には、2002年にカステリヨン州6市に住む6-7歳および13-14歳の児童を対象に質問票を使って行われた、「小児における喘息とアレルギーに関する国際調査」(ISAAC)のデータを用いた。生活水の硬度により、6市は3つの群に分類し(200 mg/l、200-250 mg/l、300 mg/l)、また、解析にはロジスティック回帰分析を用いた。

結果

6-7歳の児童の生涯のアトピー性皮膚炎有症率は、水硬度に比例して高くなる結果を得た(水硬度第一群 28.6%、第二群 30.5%、第三群 36.5%)。調整オッズ比 1.58(95%信頼区間 1.04-2.39)(adjusted tendency test $p=0.034$)。また、過去一年のアトピー性皮膚炎有症率は、水硬度第一群 4.7%、第二群 4.5%、第三群 10.4%であった(調整オッズ比 2.29(95%信頼区間 1.19-4.42)(adjusted tendency test $p=0.163$)。13-14歳の児童においては、生涯のアトピー性皮膚炎有症率でも過去一年の有症率でも、有意な数値は得られなかった。

結論

本調査は、6-7歳の児童において、住む地域の水硬度がアトピー性皮膚炎有症率に関連性があることを示している。